

当キャンペーンにより支援する活動のご紹介

住民の自立を支援して地域をつくる ～地域開発～ — 約4501万円 —

Pick Up! バングラデシュでの事業例

■小学校運営／養魚事業

— 地域の子どもの学力向上と、住民の収入創出を推進 —



子どもの宿題や、わからないところを丁寧に指導しています。この日は外で授業が行われました。

教育は、飢餓を生む貧困から抜け出す大きな力になります。ボダ郡でシュニケトン・パッシャラ(SP)小学校を運営。ここでは、生徒一人ひとりにきめ細やかなケアを行っています。放課後教室もその一つ。家では、夜電気が通っていない、大勢の家族が住んでいて落ち着かない、など勉強できる環境にない生徒が多くいるため、授業が終わった後に補習や宿題ができる時間を設けています。生徒の学力が向上し、2013年度は卒業生全員が中学校への進学試験に合格できました。放課後教室はSP小学校一校だけでなく、近隣の学校の生徒も受け入れ、地域全体の学力向上に貢献しています。



住民が、協同組合として助け合いながら魚を養殖。育てた魚を販売できるように支援しています。

同じくボダ郡では、養魚事業を推進。地域の住民たちが池で魚を養殖し、販売して収入を得られるよう、運営面でサポートしています。政府との仲介も行い、住民たちが養魚の管轄省庁から技術的な指導を受けられるようにしました。

※回収キャンペーンの資金は、小学校の運営費や収入創出の事業費として活用させていただきます。この他、住民の自立に必要な栄養改善、教育、保健衛生等の事業、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にもあてさせていただきます。

Pick Up! ベナンでの事業例

■母子保健センター運営／栄養改善事業

— 予防接種と栄養改善で、母子の健康を守る —



赤ちゃんは、破傷風、ポリオ、麻疹などの複合ワクチンの接種を受けられるようになりました。

妊娠と出産によるトラブルから多くの母子の命を救ってきたベト村の母子保健センター。妊産婦向けの予防接種に続き、2013年度は乳児への予防接種を始めました。それまでは、母子保健センターに保冷設備がなく、ワクチンを保管できないために実施が遅れていたのですが、7～8km離れた別の医療センターからワクチンを保冷容器に入れてバイクで運搬し、赤ちゃんの集団接種で使いきることで、接種が可能になりました。体力のない赤ちゃんや妊産婦の病気を予防しています。

また、ベト村では、体力をつけて健康的な生活が送れるよう、母親に対して栄養価が高い食事のメニューや、乳幼児の年齢に応じた調理法や食事の与え方、母乳育児、衛生の知識などを指導しています。母親たちもグループで助け合い、畑で野菜を共同栽培するなど、自主的な取り組みも生まれてきました。



お母さんたちは習ったメニューを家庭で実践できるよう、共同で野菜を栽培。子どもたちの栄養を補っています。

※回収キャンペーンの資金は、母子保健センターの運営費や栄養改善の費用として活用させていただきます。この他、住民の自立に必要な教育や収入創出等の事業、こうした支援を行うために調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にもあてさせていただきます。

Pick Up! ブルキナファソでの事業例

■井戸の修繕／家畜事業 — 井戸修繕で安全な水を確保。収入創出事業で連帯感を育む —



壊れた井戸は修繕し、安全で衛生的な水が確保できるようにしています。



飼育方法の研修を行い、80世帯にヤギを雄1頭、雌2頭ずつ提供。ヤギは病気に強く繁殖力があります。

井戸は衛生的な水を手に入れるために、住民にとってなくてはならないもの。遠くまで水を汲みに行く重労働からも解放されます。ところが建設してから年数がたった井戸は、よく使われるために壊れてしまうことがあります。壊れた井戸は速やかに修繕しています。また、住民たち自身で管理できるようにメンバーを選び、油を差したり、井戸の周りを清掃したりするほか、住民の間で修繕代を集めて積立てるようにしています。

また、住民が自分たちの力で収入を得て、必要な食料が十分に手に入れられるように、収入創出事業としてヤギの飼育を開始しました。住民は交配させて増やしたヤギを販売し、収入を得ることができます。この事業では、一年目のヤギ配布対象者はヤギとエサを次年度の対象者に提供、同時に飼育法も教えます。この方法には、住民同士が助け合って連帯感を育み、地域全体の生活向上を促進させる狙いがあります。

※回収キャンペーンの資金は、井戸の修繕や収入創出のための事業費用として活用させていただきます。その他、住民に必要な教育や、栄養改善、保健衛生等の事業の費用、こうした支援を行うための各種研修や運営費の一部にもあてさせていただきます。

Pick Up! ウガンダでの事業例

■栄養改善／協同組合 — 子どもの栄養状態を改善。協同組合化で地域の自立へ —



調理ワークショップでは、栄養のある料理を実際に作っている様子を見ながら学びました。



4つの活動地域で、それぞれ賛同者を集め書類を申請した結果、協同組合として国から承認されました。

乳幼児と母親を対象に、栄養価の高い野菜の種やイモの苗の提供と、栽培方法の研修を実施しました。同時に、乳ヤギを提供。対象者とその家族は野菜やイモを食べ、栄養価の高いヤギの乳を飲めるようになりました。また、調理ワークショップでは、栄養の知識や、子どもの成長に合わせた栄養を吸収しやすい調理法などを紹介。父親も参加し、栄養の大切さを学びました。この事業により、平均体重を超えた子どもの割合が、当初の4倍になるなど大きく改善しました。

また、小規模な個人農家が多い活動地では、農業経営の強化のために住民グループの法人化を進めてきました。HFWのサポートで、4つの地域で住民グループが協同組合として発足することができました。協同組合になることで、行政から技術指導や融資を受け、助成金に申請できるようになります。個人では不利だった交渉も有利に進められます。住民たち自身の手で収入の向上と生活の安定をめざす基盤ができてきました。

※回収キャンペーンの資金は、こうした栄養改善や協同組合支援のための費用として活用させていただきます。その他、住民の自立に必要な教育や収入創出、栄養改善等の事業、こうした支援を行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にもあてさせていただきます。

アドボカシー、啓発活動、青少年育成など — 約 5345 万円 —

Pick Up ! 飢餓を生み出す“しくみを変える” — アドボカシー —



第5回アフリカ開発会議終了後、アフリカと日本の NGO が共同で記者会見を行いました。

他団体とも協力して、飢餓の終わりに効果的な行動を政府や国際機関に提言し、飢餓を生み出す社会構造の転換をめざしています。国内では2013年6月に開催された第5回アフリカ開発会議(TICAD V)*に向け、提言文書の作成並びに会議の運営や進行などに中心的な役割を果たしました。第6回アフリカ会議に向けた新しいネットワークづくりも進めました。2015年までに飢餓の撲滅などを国際社会が約束したミレニアム開発目標の評価や、その後の開発目標の策定への参画も積極的に行っています。



ブルキナファソの全国紙2紙に投稿。いずれも「食料への権利」とHFWの活動について大きく掲載されました。

ブルキナファソ支部では、「食料への権利」の実現を訴えるために新聞に記事を投稿。「食料への権利」は誰もが等しく持っている基本的な権利であり、国が本来守らなければならないものであると主張。世論喚起を図りました。

*アフリカの開発をテーマとする国際会議。日本政府が主導し、国連、国連開発計画(UNDP)、アフリカ連合委員会(AUC)及び世界銀行と共催。

※回収キャンペーンの資金は、こうした各国でのアドボカシーの費用として活用させていただきます。この他、アドボカシーを行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にもあてさせていただきます。

Pick Up ! 飢餓を取り巻く現状への“気づきをつくる” — 啓発活動 —



フードロス・チャレンジ・シンポジウム。HFW、企業、行政がそれぞれの取り組みを報告しました。

日本では私たちの暮らしや食生活が世界の飢餓とつながっていることを伝え、解決に向け行動を促すための活動をしています。海外の活動国では現状をあきらめずに立ち上がり、ともに飢餓なくすために行動することを呼びかけています。

食料ロス・廃棄問題の解決をめざす「フードロス・チャレンジ・プロジェクト」では、実行委員として NGO、企業、国際機関、行政など多様な立場の人たちと連携。イベントの開催や、食育ゲームづくり、サルパ！*などを行っています。



住民から選ばれた事業の推進役が、住民にわかりやすく説明。ベナンでは活動地域を拡大しました。

また海外の各国でも「食料への権利」について、住民にイラストなどを使ってわかりやすく伝えています。ベナンでは、住民からの要望で、活動地を6カ村から15カ村に拡大。日中だけでなく夜間に行ったり、ラジオを使ったりして、より大勢の住民に伝えることができました。

*サルページパーティ。家庭で余っている食材を持ち寄り、新しい料理に生まれ変わらせてみんなで楽しみながら食べる。

※回収キャンペーンの資金は、こうした各国での啓発活動、イベント開催の費用として活用させていただきます。この他、活動を行うために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にもあてさせていただきます。

Pick Up ! 飢餓をなくす“若い力を育てる” — 青少年育成 —



各国の YEH の代表が集い、活動について情報交換し、飢餓問題について知識を深めました。



Bangladesh では羊の飼育事業を開始。得た利益は村の若者たちのための教育資金として活用されます。

未来の担い手となる若者は、飢餓の終わりの鍵となる大きな可能性を秘めています。HFW は、世界5カ国で活動する青少年組織ユース・エンディング・ハンガー(YEH)を通じて若者の活動をサポートしています。

2013年8月に各国の YEH の代表が東京に集結し、国際会議を開催しました。各国の情報を交換し、若者らしい活動の展開や各国間の連携について、白熱した議論が繰り広げられました。各国でその会議での成果をもとにした取り組みが始まっています。

Bangladesh の YEH では、HFW の指導のもとで羊を飼育する事業を開始しました。換金額の高い羊を飼育、販売します。得た利益は、村の若者たちが教科書を買ったり、受験の手数料を払ったりする際に利用できる、ごく小規模の「教育ローン」資金として運用されます。YEH のメンバーたちは、羊の飼育と同時に事業の運営方法についても学んでいます。

※回収キャンペーンの資金は、こうした YEH による開発事業や啓発活動の費用に活用させていただきます。その他、青少年の活動をサポートするために必要な調査・評価活動、各種研修や運営費の一部にもあてさせていただきます。

活動をより効果的に — 組織運営 —

各国での活動を着実に進めるため、組織力強化を進めています。日本本部では、専門技術を生かしたボランティアやインターンによって業務の質を向上させ、限られた資金で効果的に活動を推進しています。今後は国内外の職員の専門性や語学力を高める研修を行い、さらなる業務の効率化を進めます。2013年度には、広報の専門性をもつ役員をウガンダ支部に派遣し、広報力向上を図る研修を実施しました。

NGO/NPO 全体への貢献も行っています。NGO/NPO の資金調達能力向上を目的とした、日本最大のイベント「ファンドレイジング日本」の講師を務め、HFW の資金調達のノウハウを多くの団体に提供しました。また、加盟するネットワークや NGO とともに、組織の社会的責任向上の対策など、他団体の運営能力向上のための講演、研修等に人材を提供するなどの協力を行っています。

※回収キャンペーンの資金は、こうした能力強化のための研修費や会議の開催費など、運営費の一部にもあてさせていただきます。



ウガンダ支部の広報研修で作られた壁新聞。写真や素材のコラージュで楽しげに。



講演等で HFW の資金調達のノウハウを紹介。その他、個別相談にも応じています。



事務所に届く書損じハガキ等のカウント作業には、多くのボランティアが活躍しています。

* 前述の4カ国での地域開発に 32%(約 4501 万円)、アドボカシー・啓発・青少年育成などの事業(国外・国内)に 38%(約 5345 万円)、封筒製作費や料金受取人払いなどの回収キャンペーン経費に 30%(約 4220 万円)を使わせていただきます。